

---

**また明日。**

やさぐれ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

また明日。

### 【Nコード】

N8532C

### 【作者名】

やさぐれ

### 【あらすじ】

高校2年生の華子。勉強に恋にenjoyしたいお年頃。そんな彼女の悩みは、幼馴染みの浩一。浩一に振り回される華子に平和な日常は果たしてくるのか。

## 第一話：おはよう

晴れ渡った空。雲一つない。でも、私の心は曇り空。これも全てアイツのせいだ。

私には、幼稚園から一緒の幼馴染みがいる。顔はまあ、カッコイイ。勉強もスポーツもできる。ただ、……………とてつもなく「ナレシスト」なんです。

そう、とてつもなく。朝7時。

『起きろ！！華子。』

うつ、うるさい。そしてまた来た。私の睡眠を邪魔するこの男こそ、幼馴染みの浩一であります。『華子、何時まで寝てる気だ！！そんなことしてるからお前は華子のままだ。』

「うるさい。休みの日に何時まで寝てようと私の勝手でしょ！？それと全国の華子さんに謝れ！！」

つて、聞いてない。鏡見てるし……。はあ。

『溜め息なんかついて。不細工な顔が更に不細工だぞ。見る俺のこの美貌。今日も一段と美しい。』

「用はそれだけ！？！？毎日いい加減に、つて聞けー！！その5分おきに鏡見るのやめろ！！何回見たってかわりやしねーよ！！」『変わるだろ！！いいか、俺の美貌は随時美しく、そして

「おかーさん。朝ごはんまだー??」

『はなこー！！勝手に行くんじゃないー！！』

あんなバカの話聞いてたら頭痛くなるつての。『華子ー！！グハッ、

』

「うるさい！！近所迷惑だ！！」ふっ、一発殴ってやった。鼻から血だしてやんの。『何するんだ！！俺の顔に。病院行かなきゃ！！』

「いつそ頭の病院に行け。そして二度と家に来るな。」

『覚えてろよ！！』

何をだよ。……とりあえずご飯たべよ。

## 第一話：おはよう（後書き）

ギャグ連載をはじめてみました。三話ぐらいで終わるかもしれませんが、続きも読んでいただけたら幸いです。

## 第二話：今日も1日頑張ろう。

お久しぶりです。今日は学校です。

「おはよう。」今、挨拶してくれたのが親友の相沢マキです。小さくてカワイイ女の子です。

「今日も浩一くんカッコイイね。」ただ、ちょっと変わってるけど。『ねえ、奴のどこがカッコイイの！？！？授業中ずっと鏡見てるよ。うな奴だよ！！』

「そこがまたいいの。」目開いてますか。

「華子。どうした俺を見つめて。俺がそんなに美しすぎたか。」『寝言は寝て言え。』あーウザイ。誰かコイツどうにかしてよ。

「今日もカッコイイよ。浩一くん。」

「相沢はわかってるな。このバカは頭悪くて。」

『ちよつと！！あんたの頭よりマシですから。なんか腹立つんですけど！？』イライラする。こういう時は……あつ、立花先輩！！廊下に立花先輩が見えます！！すいません。興奮してしまいました。立花先輩とは、バスケ部のエースでちょーカッコイイのです。

「華ちゃん、また立花先輩見てる。」おいおい言うなよマキ、照れるだろが。

「華子。お前はやつぱり目が悪いな。俺の方が数倍美しいだろう。」

『先輩をお前みたいな変態と比べるなー！！ってか、私の目じゃなく、お前の頭が悪いんだよ！！』

「本当にお前は昔から照れ屋で困るよ。わかってる。恥ずかしいんだろ。」

えっ、何その前向きな思考。華ちゃん、ついていけないぞ。『もう、いい加減席戻って。先生来てるから！！！！』

はあ、まだなんか言ってるよ。先生泣いてるし。

よし、アイツの部屋の鏡全部割ってやろう。

### 第三話：ちょっと視点をかえて（前書き）

更新遅れてすいません。今回は浩一視点で書いてます。



### 第三話：ちよつと視点をかえて

皆さんおはよう。浩一です。今日は俺の素晴らしき1日をお教えしよう。

『鏡よ、この世で1番の美貌浩一様のお目覚めだ。』ふつ、今日もまた美しすぎる。やゝマジで！！やっぱりの角度が……………一時間後。

よし、学校へ行くか。まただ。俺が通るたびに振り返る。なんて罪な美しさ。バコツ、

「何キミ子お婆ちゃんに色目使ってるんだよ！！お婆ちゃんビックリしてるでしょ！！」今俺の頭を叩いたこの女は幼馴染みの華子。顔は、家の金魚にそっくりだ。イヤ本当に。ちなみに金魚の名前も「はなこ」だ。

「ねえ、その、鏡とお喋りする癖やめろよ。キモいよ。」『キモいとはなんだ！！いいか、俺の

「ハイハイ。学校つきましたよ。先行くから。」

はあゝ。まあ、見てわかる通り華子は俺が好きだが素直になれないらしい。困った奴だ。

「浩一、何してんだ。」

おーこれは俺の親友の祐希。顔は……………はんつ、俺の足元にも

「お前今失礼なこと考えただろ！！」失礼も何も、本当の事を言っただけだ。所詮、お前は俺の引き立て役でしかないのだよ！！！！「何？？そのバカにしたような顔！？！？親友に向ける顔かよ」『いや、可哀想だなと思って。』

「華子ちゃん！！コイツ何とかして！！」

むっ……………華子に助けを求めるなんて、アイツは俺の下僕だぞ！！アイツに命令出来るのは俺だけだ！！

ゲフツ、

「声にでてんだよ！！誰があんたの下僕じゃー！！」

相変わらずイイ蹴りいれるじゃないか華子よ。だがな、そんな怒った不細工な顔を見せてイイのは俺だけだからな。祐希を試してみろ、どんびき

「今日も凄まじいね。華子ちゃん。」

「やつだ、祐希君たら。照れちゃうぞ」

「誉めて無いけどね」

『……………行くぞ！！』

「ちよつと、引つ張らないでよ！！」

俺以外にそんな笑顔みせるなよ。

俺だけの華子。

#### 第四話：平和を祈ろう！！

お久しぶりです。今日もまた世界の平和を願う華子でございます。  
そして私の周りは戦争です。

「ちょっと、それ私の焼きそばパン！！横から手出してんじゃねえーよ！！」そう、これはお昼のパン争奪戦。私は今、購買という名の戦場にいます。

やっと買えた。私は戦利品を持って教室へ向かう。はずだった。

『華子。ちょうどいい所に。』全然よくねーよ。寧ろ最悪だ。ここはシカトして……

『旨そうなの持つてるじゃないか。よこせ。』

「何を言っとなるんじゃナル野郎！！」聞きました？皆さん！！この男は私が勝ちとった勝利の品を奪おうと！！

「なに勝手に食べてるの！？！？」『イマイチだな。』

「イマイチってなんだＹＯ！？！？私の汗と涙の結晶だよ！！ＨＥＹ 浩一、お前の顎粉々にしてやるＹＯ！！」はっ、興奮しすぎて言葉がおかしくなってしまうた。「って、吐き出せ！！今すぐ元の焼きそばパンにもどせ！！」『くっ、苦し。わかったから……首……をしめるな。』

ふん、わかればいいのだよ浩一君。だから鏡を見てないで買ってこい！！っと思いを込めておもいきり鏡を割ってやった。

『何すんだよ！！俺の美貌を映す相棒になんてことを………』

「お前の鏡より私がブローケン・ハートだよ！！スタボロだよ！！」

『ほら、買ってきたぞ……』 やつと買ってきたかナル野郎。鏡を壊されてそんなに落ち込むのは、お前ぐらいだよ。ちょっと可哀想だったかなあー……………

「何だよコレ!?!?金魚の餌?」 『うちの金魚のはなこの餌。分けてやるから有り難く思えよ。』

お母さん、私犯罪者になってしまつかも。

**第五話・モヤモヤしてるぞー！（前書き）**

ちよつとだけ話に展開を。

## 第五話：モヤモヤしてるぞ！！

『華ちゃん、気持ち悪いよ。』

皆さん、聞きました？彼女これでも私の親友ですよ！ただ、ちょっと妄想してただけなのに。

「ヒドイよ、ちよつと立花先輩のカノジヨになるイメージトレーニングしてただけなのに。」『やっだゝ華ちゃん。冗談は顔だけにして。』

「マキさん！！あんた今サラツとヒドいこと言っただよ！？！？」『ウソウソ、冗談だよ。』

冗談に聞こえないんですが！！寧ろその笑顔が……………っ、目が笑ってませんよ！！マキさん！？

『それに華ちゃんには、浩一君がいるじゃない。』

……………サラツと爆弾発言しましたよ！！いや、私の耳が遠くなって、

『あんなに素敵なカレシがいるのに、華ち

「マキ、誤解だから！！あんなのと付き合ったら胃に穴があいてしまっ！！」

それはもう大きな風穴が……

『じゃあ、マキが奪っちゃてもイイ？？』

「えっ、うんうん！！好きなだけ奪っちゃて！！」

あれ、今私ちよつと胸がズキツて、

『ウソだよ、ウソ。だからそんな顔しないの。』

「うん……」やだ、私何か今スッゴイ胸が苦しい。何だろうこれ……

『華子、不細工な顔して走るんじゃない!!』……

……… っ て、マラソンで息苦しいだけじゃない!! 変な感じになってしまったではないか。クソッ、マキめ。覚えてろよ。

『何、ブツブツ言ってるんだ。キシヨ。』

「あ・ん・たのせいだよ、浩一さん!! それに鏡を見ながら走ってどんだけ〜」

はっ、ついつい某オカマ口調に!!!

「あれ、マキは?」『相沢ならよろしくって、先走ってたぞ。』

本当に覚えてるよ……。『ところで華子、お前そんなに立花がイイのかよ。』えっ、何急に。『お前には俺がいるだろ。俺が。』

……… お兄さん。鏡見ながら言っても全然なんです!! しかもそれ体育の山田(45才)だから!! 自分の顔気にしすぎて周り見なさすぎ!! ちよっと山田、顔赤くしてドキドキしてるんですけど!!?!!? …… キモッ。

あゝ早く体育終わんないかな。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8532c/>

---

また明日。

2010年10月28日08時08分発行